

殺処分ゼロ800日、継続へ今が正念場 重ねてのご支援をお願いします。

支援者の皆さま、

平素より「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトに温かいご支援をたまわり、誠にありがとうございます。

皆さまのご支援のおかげで、2012年の活動開始からこれまでに4,000頭以上の犬を保護し、うち約1,000頭を里親さんに譲渡、または元の飼い主さんにお返しすることができました。2016年4月に広島県内で殺処分対象になったすべての犬の引き取りを始め、県内の犬の「殺処分ゼロ」は800日以上続いています。これは、活動を支えてくださっている全国の多くの皆さまのおかげです。深く感謝申し上げます。

私たちは広島県神石高原町などで保護シェルターを増設し、多数の引き取りに対応するとともに、今年1月には全国で5カ所目の譲渡センターを東京・あきる野に開きました。専任スタッフだけで80人、外注の清掃業者やボランティアさんを含めると100人以上が、日々、1頭でも多くの犬が幸せな家庭に迎えられることを願って懸命に働いています。2017年度は300頭以上の保護犬が里親さんとの出会いを果たしましたが、今年度は500頭以上を目標に、奈良県生駒市や岡山市でも譲渡センターの開設準備を急いでいます。



しかし残念ながら、收容される野犬や捨て犬の数が減っているわけではありません。2015年度の県内の殺処分数が792頭だったにも関わらず、16年度に私たちが保護した犬の総数は約1,400頭、17年度はさらに増えて約1,800頭にのびりました。これは、30頭ほどを毎週引き取っているペースです。



毎週火曜日、県の動物愛護センターに私を含めピースワンコのスタッフが殺処分対象の犬を引き取りに行きます。愛護センターから車で約2時間かけて神石高原町のシェルターへ戻ると、まず獣医師が1頭1頭の健康状態をチェックします。その後、感染症予防のための混合ワクチンを打ち、カルテを作成し、そこで病気にかかっている犬がいれば、その治療を続けます。

引き取った犬の診察には、飼育スタッフも立ち会い、犬が暴れないように抱えたり、犬に名前をつけて色や性別などをデータベースに入力したりします。どれも、シェルター内で保護犬たちを大切に育てていくために必要なことですが、作業は深夜に及ぶことも珍しくありません。

シェルターには現在、全頭引き取り前の10倍にあたる2,400頭余りの犬が暮らしています。全ての犬が安心して暮らせるように、現在も増築工事を進めていますが、引き取った犬全てに十分なスペースを与えるのは容易ではありません。犬舎によっては、徐々に過密化が進んでいるところもあり、スタッフが散歩や人馴れなどのトレーニングをする時間も不足しています。

こうした現状に対し、「過密になるぐらいなら引き取りを制限するべきだ」という意見も聞きます。しかし、引き取りを止めた瞬間に犬たちがガス室に送られ、殺されてしまうことが分かっているなかで、私たちは「殺処分ゼロ」を簡単にあきらめるわけにはいきません。助かる可能性がある命を助けるため、全力を尽くす覚悟です。



「殺処分ゼロ」を今後も続けていくためには、この1、2年が勝負どころだと私たちは考えています。年間の保護頭数がこれまでの半分程度に落ち着き、譲渡を逆に今の2倍程度にまで増やすことができれば、犬の出入りの数がほぼ均衡し、シェルターの状況は大幅に改善します。

一方、もしこのまま動物愛護センターなどからの引き取りが減らず、譲渡数も伸びなければ、シェルターの運営は非常に厳しくなってしまいます。それは、助かるはずの命を「選別」しなければならなくなることを意味します。

日ごろからご支援いただいている皆さまには重ねてのお願いとなり、たいへん恐縮ですが、殺処分機を二度と稼働させないために、どうかこれまで以上のご支援をピースワンコにいただきますよう、よろしくお願いいたします。貴重なお時間を割いて読んでくださり、本当にありがとうございました。

ピースワンコ・ジャパン スタッフ

安倍 誠

